

## 中長期の経済財政運営

2022年12月22日

十倉 雅和

中空 麻奈

新浪 剛史

柳川 範之

コロナ禍や長引くロシアのウクライナ侵攻の下、世界的なインフレと高金利、ドル高などの経済変動が生じている。同時に、グローバルゼーションの動きが後退し、ブロック経済化への懸念が生じる中、サプライチェーンやエネルギー供給構造は変化を余儀なくされている。国内的にも、産業の国際競争力の低下、インフレ率と比較した賃金の伸び悩み、コロナ禍を契機とした少子化の加速など課題が顕在化している。

このように、内外経済社会を取り巻く環境が大きく変化する中、中長期を見据えた経済財政運営の全体像を明らかにしつつ、成長と分配の好循環拡大に向け、年明け以降有識者も交え、経済財政諮問会議で精力的に議論していく必要がある。

## 1. 経済社会環境の変化と経済財政運営へのインパクト

- ウクライナ危機発生以降、世界的な資源価格の高騰に見舞われるとともに、サプライチェーンの再構築など供給面の課題にも直面。コロナ禍後のV字回復で需要超過となり高インフレが発生した米国では、金融財政政策を引き締めており、世界的なドル高傾向にある。こうした中、世界経済は減速が見込まれ、物価高と不況の同時発生が懸念される状況にある。
- 我が国では新型コロナウイルスからの回復は緩やかであり、企業の国内投資はコロナ前水準に届いていない。また、3～4%の物価上昇に対して賃金の伸びは2%弱にとどまっており、多くの家計で消費マインドが悪化するなどにより、需要不足が継続している。
- こうした中、マクロ経済政策により民間投資を中心に経済の回復をサポートしながら、「国内投資の活性化を通じたイノベーションの創出」と「働き方改革や人的投資拡充を通じた賃金所得の拡充」を車の両輪として、日本経済の供給サイドを強化していくことが重要となっている。
- さらに、今後、中長期的に成長と分配の好循環が拡大していく下、金融環境の変化が経済・財政に与える影響などを十分に考慮し、経済財政運営に当たってのリスクにしっかり備えていく必要がある。

## 2. 中長期を見据えた経済財政運営

こうした経済社会環境の認識を踏まえ、中長期を見据えたマクロ経済運営の在り方、成長と分配の好循環の実現に向けた考え方、目指すべき経済社会構造の在り方等について、長期計画的に政府投資を展開する「ダイナミックな経済財政運営」やバックキャスト型の観点をもって、以下の論点について議論を深めていく必要があるのではないか。

### (1) 持続的安定的成長に向けたマクロ経済運営の在り方

- 物価上昇に負けない持続的な賃金上昇を可能とする環境の構築
- 経済を安定的な成長軌道に乗せていくためのポリシー・ミックス
- 世界経済のインフレ・経済減速の深刻化、エネルギー・食糧価格の高止まりや供給途絶、地政学リスクと重要品目のサプライチェーン破たん等のグローバルリスクへの積極的な対処
- 中長期的な投資資金の確保と財政規律 等

### (2) 成長と分配の好循環の実現、サプライサイド強化に向けた考え方

- 分厚い中間層の構築、格差是正、質の高い雇用の創出のための環境整備
- 社会課題解決に向けた投資促進のための中長期的な枠組み整備
- 予見性を高める官民の連携の在り方

### (3) 目指すべき経済社会構造の在り方

- コロナ禍を契機に婚姻率・出生率が急低下する中、少子高齢化・人口減少等に伴う国力の縮小傾向・地域経済の衰退を収束・反転させるシナリオ（人的投資、子育て支援の強化等）
- 人口減少下での社会保障制度の持続可能性強化、地方行財政制度の在り方

(以上)